

# 手話単語の記憶における学習形態の影響

- 表現容易性とイメージ性との関連 -

上林智美・北神慎司

( (株)増田医科器械店・島根大学法文学部 )

## 【目的】

近年、手話通訳付きのニュースが放映されたり、手話サークルや手話の講習会が各地で開かれたりするなど、健聴者であっても、手話に触れる機会は多くなってきている。このような健聴者が、いわば第2言語として、手話を学習する場合、テキスト教材、ビデオ教材、CD-ROM教材など、さまざまな学習形態が考えられる。これら学習形態の違いによって、手話単語の記憶は異なるのであろうか。

また、一口に手話単語といっても、例えば、手の形をとってみればわかるように、単語によってさまざまである。すなわち、学習形態の影響を検討する際に、それぞれの手話単語が持つ属性に着目する必要があると考えられる。そこで、本研究では、松見(1999)によって、相互の独立性が確認されている「表現容易性」と「イメージ性」という2つの属性を取り上げて、これらの属性と学習形態がどのような関連を持って、手話単語の記憶に影響を及ぼすかを検討する。

## 【方法】

**被験者:** 手話の学習経験がない大学生36名を、12名ずつ、3つの提示群(動画/写真/線画)に割り振った。

**デザイン:** 手話単語の表現容易性(高/低)×イメージ性(高/低)の被験者内2要因計画。

**材料:** 予備調査によって、松見(1999)と同様の手話基本単語100語の表現容易性とイメージ性のデータを3つの提示群ごとに収集した。これらのデータを元に、高表現・高イメージ、高表現・低イメージ、低表現・高イメージ、低表現・低イメージの手話単語をそれぞれ5語ずつ、提示群ごとに選定し、被験者1人あたり、4リストを作成した。

**手続き:** 実験はすべて個別により行われた。学習時、被験者は、動画群は動画刺激(手話単語)、写真群は写真刺激、線画群は線画刺激が、1語あたり10秒間、2回繰り返して提示された。同時に、手話表現の説明文が聴覚提示された。手話単語の提示順序は、リスト内では一定であったが、リスト間ではカウンターバランスされた。次に、フィラー課題として、数字の逆唱課題が30秒間行われた後、画面に提示された日本語単語に対応する手話を実際に表現する、手話の手がかり再生テストが行われた。なお、日本語単語の提示時間は3秒、提示間隔は7秒で、計20語の提示順序はカウンターバランスされた。

## 【結果と考察】

手がかり再生テストにおける被験者の反応を録画したビデオにもとづき、観点別に、2名ずつの手話学習経験者が得点化した。その1つは、客観的評定であり、手話単語の手の形、手の位置、手の動きがすべて正しく再生されている場合を2点、それらのうち1つだけが間違っている場合は1点、無反応あるいは2つ以上が間違っている場合は

0点とした。もう1つは、主観的評定であり、再生された手話を5段階(最高5点)で評定した。

表1~3に、提示群別の、各条件における手話単語の平均正再生得点を示した。表1~3のデータにもとづき、提示群ごとに、表現(高/低)×イメージ(高/低)の2要因分散分析を行ったところ、動画群および写真群において、表現の主効果(それぞれ、 $F(1,11)=16.75, p<.01$ ;  $F(1,11)=76.88, p<.01$ )とイメージの主効果(それぞれ、 $F(1,11)=14.68, p<.01$ ;  $F(1,11)=25.69, p<.01$ )がそれぞれ有意であったが、交互作用はいずれも有意ではなかった(それぞれ、 $F(1,11)=.13, n.s.$ ;  $F(1,11)=.19, n.s.$ )。つまり、学習形態が動画もしくは写真の場合は、表現容易性とイメージ性は、手話単語の記憶に対して加算的に働いていると考えられる。

また、線画群においては、表現の主効果( $F(1,11)=25.00, p<.01$ )、イメージの主効果( $F(1,11)=53.86, p<.01$ )、および、交互作用が有意であった( $F(1,11)=17.21, p<.01$ )。すなわち、学習形態が線画の場合は、イメージ性が高ければ、表現容易性の高低に関わらず記憶成績がよいことが示された。以上の結果は、主観的評定でも同様であった。

これらの結果を、実際の手話単語の学習場面に適用するならば、まず、学習初期には、表現容易性、イメージ性がどちらも高いものを学習すればよいと考えられる。また、逆の捉え方をするならば、学習する手話単語に応じて、適切な学習形態を選択する必要があると考えられる。例えば、イメージ性は高いが、表現容易性が低いものについては、線画による学習が適しているであろう。

表1 「動画群」における平均正再生得点(SD)

	高イメージ	低イメージ
高表現	8.33 (1.30)	6.17 (2.04)
低表現	6.94 (2.35)	4.50 (2.24)

可能得点範囲は0~10点

表2 「写真群」における平均正再生得点(SD)

	高イメージ	低イメージ
高表現	8.67 (1.07)	6.58 (2.47)
低表現	4.83 (2.69)	3.17 (1.80)

可能得点範囲は0~10点

表3 「線画群」における平均正再生得点(SD)

	高イメージ	低イメージ
高表現	8.50 (1.17)	6.83 (1.70)
低表現	8.17 (1.59)	3.42 (2.23)

可能得点範囲は0~10点